東館賑わい創出「若年層地域貢献事業報告」
（ 事業名 ippuku nipuk ）

会　場	菊川市内市民活動団体の活動場所 菊川市市民協働センター
開催日	2019 年 7 月 21 日、８月 31 日～９月１日
参加者	・列島ききがきノート編集部９名 （NPO 法人共存の森ネットワーク３名 首都圏の大学生（列島ききがきノート編集部）大学生メンバー６名） ・常葉大学附属菊川高校美術デザイン科　生徒４名、教員１名 ・その他 菊川市茶業協会等

① 実施の目的

当法人のネットワークを活用し、県内外の NPO 法人や市内高等学校への働きかけを行い、既存の市民活動団体等との連携支援や新たな活動創出の支援を行う。

東京都にある NPO 法人共存の森ネットワークが主催する「列島ききがきノート」は、「いきる」を見つめなおすウェブメディア。編集部に所属する首都圏の大学生が地域を訪ね、肌で感じ、学んできたことを記事にして連載していく。

地域外の若者が、特産である菊川茶を中心に菊川の魅力を体感してもらうことで関係人口を育む。同時に、取材活動を通じて地域外に菊川の魅力を発信する。

② 実施内容

１．首都圏の大学生が菊川市内の市民活動団体などを取材

〇日時　6 月 15 日（土）13：00～17：00
　　16 日（日）9：30～12：30

最初に、岩沢園から事業の説明や茶揉み体験の指導などを行い、菊川茶への関心・理解を深めた。その後、お茶のまちの「いっぷくする自然体の生き方」をテーマに、まちの自然体にフォーカスし、市内で活動する市民活動団体等を取材。後日、取材した記事を列島ききがきノート（ウェブメディア/ https://note.mu/kikigaki_note ）に連載した。

訪問先：当 NPO 法人が訪問先を紹介し、取材に同行。
・菊川ジュニアビレッジ・・子どもと農業のビジネス
・セカンドライフマスターズ（龍雲寺）・・だれでも食堂
・NPO 法人菊川まちいき・・赤レンガ倉庫の保存とまちづくり
・NPO 法人せんがまち棚田倶楽部・・・棚田の復活、保全活動
・岩沢園・・自然と共生・自然循環型農業（お茶生産者）

２．首都圏の大学生と常葉大学附属菊川高校の生徒が活躍する人を取材、ポスター制作

〇日時　８月 31 日（土）9：00～20：00
　　９月１日（日）10：00～13：00

常葉菊川高校の生徒と首都圏の大学生らが地域で活躍する人を取材。高校生と大学生がペアになり、お茶生産者や販売者を対象に行うだけでなく、「菊川らしい」活動をする人５人のインタビューをした。

その後、地域内外の学生のそれぞれの目線から、取材された人の魅力が伝わるよう内容をまとめ、ペアごとに高校生が物語を発表。美術大学生がイラストを添えてポスターを５点制作した。

〇取材先：当 NPO 法人が訪問先を紹介し、取材に同行。

・NPO 法人ソヒゾ・デ・クリアンサ日伯交流協会　ルビオ ダ ロシェ マルシア氏
　・・日本とブラジルの文化交流
・㈱アイデア　宇佐美竜一氏・・地域資源活用した体験型イベントの開催等
・岩沢園　岩沢克彰氏・・自然と共生・自然循環型農業
・モスファーム㈱鈴生　松本剛史氏・・農業を通した食育活動、農福連携事業
・サーフィンライス 井指康宏氏・・菊川市の美しい農地に惹かれ移住し、農産物を生産

３．「菊川を物語るポスター展」開催

日時：１月６日（月）～２月５日（水）

「菊川を物語るポスター展」と題し、制作したポスター５点を菊川市市民協働センターで展示した。

ポスター展には、NHK テレビ、静岡新聞、中日新聞、郷土新聞など多数のメディアに取り上げられたことで、より多くの市民に菊川市の魅力を伝えることができた。

ポスターは、取材時のものを美大生が手を加え展示。取材先や常葉高校へも配布・展示した。

③ 総括

地域外の若者が菊川市の市民活動団体や高校生と関わり魅力を体感し、外部からの支援する人の視点による菊川市の新たな魅力の発見につながった。また、大学生たちは取材後、東京で初の「列島おみやげもの市」を開催し、菊川の深蒸し茶を多くの人にふるまうなど、新たな菊川ファンの獲得につなげた。https://note.com/kikigaki_note/n/n0e1f2dd0186e

来年度、この事業は市１％地域づくり活動交付金事業（学生枠）を活用し、さらに首都圏の学生との関係人口を育む機会につながっていくことが期待できる。

画像

首都圏大学生による「市民活動団体の訪問」

菊川茶の手もみの実演

菊川市で活躍する人の自己紹介

取材先の情報共有

「菊川で活躍する人」物語とポスター制作

「菊川を物語るポスター展」開催